

目標・KPI（2024年度）

No.	重要課題テーマ	重要課題 (マテリアリティ)	長期		短期		対象範囲	2024年度活動実績
			長期目標（2030年にありたい姿）	KPI	短期達成目標	KPI		
1		①-1あらゆるエリア・環境への放送・通信インフラの提供	どんなときも、地球上のあらゆるものや場所に対して信頼性の高いコネクティビティを提供することにより、特に条件不利エリアや開発途上エリア等におけるデジタルデバイドの解消と通信環境の改善に寄与し、人々のより自由な情報へのアクセスを実現する。	保有衛星（非静止衛星やHAPSを含む）の利用帯域	・静止衛星フリートの利用帯域を前年度末より拡大する ・保有衛星以外も含めて衛星通信サービスの拡充を進める	・保有衛星フリートの利用帯域 ・事業提携先の衛星サービス（船舶向け）契約数	グループ	・衛星フリート利用帯域：前年度末比101％ ・事業提携先の衛星サービス（船舶向け）契約数は前年度並みを維持
			—	—	災害時等に重要な情報源となる光ファイバー経由の再送信サービスの累計契約件数を2025年(2024年度末)までに、282万件に拡大する	再送信サービスの累計契約件数	グループ	再送信サービスの累計契約件数：286万件
2	①レジリエントな放送・通信インフラの構築、情報格差の解消	①-2災害に強いレジリエントな放送・通信インフラの提供を通じたBCP及び救援・復興支援	さまざまな災害から人命・経済・暮らしを守り支えるための強靱な通信ネットワークを提供し、災害に対するレジリエンス強化に貢献する	保有衛星（非静止衛星やHAPSを含む）の利用帯域	・静止衛星フリートの利用帯域を前年度末より拡大する ・保有衛星以外も含めて災害対策に有効なサービスを開発、拡充する ・防災支援機関や企業等との耐災害パートナーシップを拡大する	保有衛星フリートの利用帯域	グループ	・衛星フリート利用帯域：前年度末比101％ ・千葉県館山市における災害時に衛星回線を活用した医療活動の実証実験への参加
			—	—	放送及び配信サービスを安全且つ安定して提供できる環境を向上する	竣工15年大規模建物修繕の実行	グループ	スカパー東京メディアセンターの大規模建物修繕が2024年度末に完了し、安全に放送を継続できる環境の向上に貢献
3		①-3技術イノベーションを踏まえた衛星通信サービスの高信頼性・高持続性に向けた取り組み	サービスの安定に繋がる新たな技術の開発や採用に加え、社外とのパートナーシップによる衛星や管制設備の冗長化などに積極的に取り組みサービスの高度化と信頼性向上をとともに実現する	重大なサービス断数（※）	重大なサービス断を毎年ゼロ件にする（※） ※ 重大なサービス断…電気通信事業法施行規則第58条に準じる	重大なサービス断数（※）	グループ	重大なサービス断が2件発生
4	②多様なコンテンツによる生活の豊かさの向上	②-1多様なコンテンツを、放送や配信、様々な顧客接点で提供	・様々なコンテンツやサービスを取り揃え、人々の価値観を広げる統合メディアプラットフォームを実現する ・人々とコンテンツの出会いを促進し、観たいコンテンツを簡単に観ることができる世界をつくる	—	衛星放送、配信サービスのコンテンツを充実させ、放送及び配信と連携した体験イベントの開催などにより人々がコンテンツを楽しむ機会を増やす	イベント開催数	グループ	・イベント開催数：ブンデスリーガジャパンツアー2024など計9件 ・アニメを中心とした映像コンテンツの企画・製作投資・販売、及び周辺事業を推進すべく、4月に㈱スカパー・ピクチャーズ設立。
5		②-2多様なコンテンツホルダーの参入を支援し、コンテンツ流通を促進		・メディアソリューション事業の新規顧客の増加 ・運用効率化に向けたLYNKs追加機能の開発	・コンテンツ提供者にTMCにおけるスタジオ機能、コンテンツの伝送、配信機能等をサービスとして提供し、多様なコンテンツ流通を推進させる ・コンテンツデータベース（LYNKs）により放送事業者における番組情報業務の運用効率化を実現し、番組情報流通のエコシステム化を推進	・メディアソリューション事業の新規顧客の増加 ・運用効率化に向けたLYNKs追加機能の開発	グループ	・メディアソリューション事業の新規顧客数：前年度比で増加 ・地方創生コンテンツの配信実証実験に参画し、12月～2月にSPOOXで配信 ・プレアウトサービスにて新規に4チャンネルのサービス提供を開始 ・LYNKsを使用した番組情報業務の運行効率化を1chで実運用開始
6		②-3暴力・人権・差別等のコンテンツへの適切な対応		—	提供コンテンツのガイドラインに沿った適切な運用を実施し、時代の変化に合わせ随時改定を行う	—	グループ	・番組審議会での番組審議や定常的な番組審査の実施によるコンテンツのガイドラインに沿った適切な運用を実施 ・番組制作会社へ人権DDのアンケート、インタビューを実施。人権リスク防止に向けた対応についての検討を開始
7	③脱炭素社会と循環型経済の実現に向けた環境への寄与	③-1当社グループ事業におけるCO2削減をはじめとする気候変動への対応	Scope1、2のカーボンニュートラルおよびScope3の削減を継続させ、気候変動問題への緩和と適応が進んでいる状態	GHG排出量	・2025年度のScope1、2カーボンニュートラル達成の実現に向けたGHG排出量の削減と課題解決への対応 ・Scope3のGHG排出量の削減に向けた中核事業会社スカパー J S A T ㈱の具体的な取り組みの検討の開始	・GHG排出量 ・再生可能エネルギー使用比率	グループ	・実質再生可能エネルギー使用比率： 99.8％（2025年3月末時点） ・Scope1・2のグループ全体の2024年度 GHG排出量は前年度比76％削減 ・Scope3の削減に向け、スカパーJSATの対象となる全10カテゴリーのScope3排出量を算出し、Scope3総排出総量を把握
8		③-2衛星を利用したCO2削減の支援	CO2削減に寄与する事業やサービスの提供を通じて、脱炭素社会へ貢献する	—	CO2削減に寄与する事業やサービス開発を推進する。	CO2削減に寄与する事業やサービス開発の進捗状況	スカパー J S A T ㈱	・日射量予測／太陽光発電出力予測システム：新規2件 ・チャレナジー風力発電案件： -金沢市と小型風力発電機と衛星通信を組み合わせた災害対策ソリューションについて、寒冷降雪下での動作の実証実験を実施 -福島県と大型化した風力発電の試験機での実証実験を開始 -高層ビル屋上での都市型風力発電機としての実証実験を開始
9		③-3廃棄物の適正な処理、リユース、リサイクルの推進	廃棄物の適正な処理、リユース、リサイクルの推進により、廃棄物量を削減する	廃棄物総排出量	・廃棄物排出量を集計し、実績を開示する ・リサイクル率の更なる向上	廃棄物総排出量	廃棄物総排出量	当社及び国内連結子会社
10	③-4環境に配慮した調達	全サプライヤーにグリーン調達を浸透させる	—	紙資源の削減とデジタルシフト推進を行う	グループ			契約者への番組情報DMや書面通知について、デジタルコミュニケーションツールへの切り替えを実施し、紙の使用量と制作と配送にかかるCO2排出を削減
				文具等消耗品におけるグリーン購入のグループ会社への拡大推進 事業系へのグリーン調達導入に向けて検討を開始する	—	グループ	文具消耗品等のグリーン購入システムについてグループ全社での導入切替が完了 サプライヤーサステナビリティガイドラインに基づくサステナビリティアンケートを主要な取引先に実施し、環境負荷低減に向けた取り組みを実施	

No.	重要課題テーマ	重要課題 (マテリアリティ)	長期		短期		対象範囲	2024年度活動実績
			長期目標（2030年にありたい姿）	KPI	短期達成目標	KPI		
11	④宇宙環境の改善	④-1宇宙ごみ削減への取り組み	宇宙ごみ除去サービスを事業として確立させ、持続可能な宇宙開発に向けたクリーンな宇宙環境の維持・改善に貢献する	－	技術研究開発を推進する	事業開発の進捗状況	グループ	※Orbital Lasersにおいて以下の取り組みを実施 ・JAXAとの高度計ライダー衛星の概念設計に係る研究開発契約の締結 ・デブリ除去ペイロードの各コンポーネントの試作機開発を実施
12	⑤環境や社会に寄与するイノベーションの推進	⑤-1リモートセンシングの開発・推進	リモートセンシング事業を推進することにより地球環境改善や安心安全な社会の発展に寄与する	リモートセンシングの具体的な活用事例数	・リモートセンシング活用事例を拡大する ・地球観測(EO)事業者、データ解析プラットフォーム事業者、データ利用事業者とのパートナーリングを拡大する	・リモートセンシングの具体的な活用事例 ・パートナーリング状況	グループ	・斜面・インフラモニタリング 「LIANA」サービスの契約数が順調に伸長 ・SAR衛星画像解析 「衛星観測リソースを結集する『日本版災害チャータ』の構築と実証」プロジェクトにおける災害時のSAR画像解析に参画 ・パートナーリングの拡大 Planet Labs PBC（米国）が開発する次世代光学観測衛星「Pelican」を採用した低軌道衛星コンステレーション構築に向けた協業を開始
13		⑤-2NTN事業の開発・推進	すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワークを構築し、Society 5.0が提唱する超スマート社会の実現に寄与する	－	・事業開発関係先とのパートナーシップを推進する ・事業計画を策定し（見直し含む）、アクションプランを実行する ・3GPPへの参加等を通じて標準化活動を推進する	事業開発の進捗状況	グループ	・パートナー企業とともにHAPS(高高度プラットフォーム)を用いた携帯端末での高速通信を実用化を見据えた研究開発を推進 ・横浜衛星管制センターに「Universal NTNイノベーションラボ」を構築し、非地上系ネットワークと5G技術を活用した試験を開始
14		⑤-3放送・通信の高度化、技術開発等による新しい価値の提供	新たな事業／サービスを提供し続け、社会を発展させる	－	・宇宙事業において新たなビジネスの創造・協創の検討を進める ・メディア事業において顧客価値を高める新たなサービスを毎年投入し続ける	新たな事業／サービスの具体的な事例	グループ	・宇宙関連スタートアップとの協業を推進。2社への出資を決定 ・2024年10月より自社開発ストリーミングスティック「スカパー！＋（プラス） ネットスティック」のサービスPoCを開始 ・ブロックチェーン技術を活用したweb3領域での新規事業開発として放送・配信と連動した企画の10件のトライアルを実施 ・2024年12月より番組コンテンツ単位の視聴が可能となる新サービス『スカパー！Sチケツト』提供開始
15	⑥パートナーシップの促進（※）	⑥-1パートナー企業との人材交流・技術交流、および協業プロジェクト、イニシアチブ等への参画	－	－	－	－	グループ	－
16	⑦強靱な経営基盤の整備	⑦-1コーポレート・ガバナンス体制の整備	取締役会の経営機能・監督機能を強化し、多様性と実効性のある体制を常に追求する	－	・コーポレートガバナンス・コードを遵守する ・重大な違反件数をゼロにする（前年度より継続）	重大な違反件数	グループ	コーポレートガバナンスコードを遵守し、また、経営に重大な影響を及ぼすような法令違反などの重大な問題は発生していない。 ・サステナビリティ関連の取り組みを取締役会で報告（6、11月） ・社外取締役への事前説明および社内議論の共有 ・取締役会実効性評価の実施（2月） ・内部統制委員会(10月、3月) ・リスクマネジメント委員会(9月、3月) ・コンプライアンス委員会（7月、11月、3月） ・JSOX委員会(6月、1月)
17		⑦-2ステークホルダーへの積極的かつ責任ある対話と開示	適切な対話と開示を実施し、ステークホルダーとの強い信頼関係を築き続ける	－	・開示内容を充実させ、ステークホルダーごとの対話実績等を開示する ・持続可能な調達に向けサプライヤーとのコミュニケーションを強化する	・投資家面談数 ・アセスメント実施数	グループ	・機関投資家や金融機関を含むステークホルダーとの対話を積極的に実施、対話回数は前年度比約1.2倍 ・ポジティブ・インパクト・ファイナンスを通じた対話の継続 ・サステナビリティアンケート実施を通じたサプライヤーとのコミュニケーションの強化
18		⑦-3情報セキュリティ・個人情報保護	重大な違反や情報漏洩ゼロを維持する	重大な違反や情報漏洩件数	・ISMS・Pマーク認証を毎年維持する ・サイバーセキュリティを強化する	－	グループ	・ISMS・Pマークの認証を維持 ・社内でのCSIRT向けインシデント机上演習やセキュリティ講習会、標的型攻撃メール訓練等の研修の強化と啓蒙活動の実施 ・脆弱性、IT資産等の可視化を進めるとともに、サイバーセキュリティ自己点検（アセスメント）の強化
19		⑦-4人権の尊重	人権尊重の考えが浸透し、方針に掲げた取り組みが実施されている	－	人権デュー・ディリジェンスを開始し、人権リスクの特定、必要に応じた対策を実施する	－	グループ	・コンプライアンス研修と人権関連の研修を共催（6月～7月） ・人権デュー・ディリジェンスを開始し、スカパーJSAT㈱の一次サプライヤーを対象に人権リスクの特定、施策の検討、一部実施を行い、その状況をサステナビリティサイト「人権に対する取り組み」に開示 ・「人権方針」の改定（2025年3月）
20	⑧多様な人財の活躍	⑧-1環境の変化に対応し、変革を推進しうる人財の確保・育成	一人ひとりの能力アップのための環境が整備され、個々の能力の総和としての人的資本が拡大し、変革の推進、労働生産性の向上が実現している状態	労働生産性 （一人あたり利益）	・キャリア自律促進のために手挙げ式研修プログラムを増やす、参加数を増やす ・スキルギャップを明らかにするためにスキルマップ構築を進める	－	スカパーJSAT㈱	・キャリア自律促進を目的とした手挙げ式研修プログラムを実施 ・教育研修資格補助制度の拡充 ・スキルマップ運用の開始（スキルチェック実施と傾向分析）
21		⑧-2多様な人財の活躍を促すDE&Iの実現	多様性のある環境を実現することで、活発にイノベーションを創出している状態	女性管理職比率	・内発的動機を高める施策や働きかけにより、社員の意識変容を進める ・働きやすい環境整備とコミュニケーション活性化により、多様な働き方への理解浸透を図る ・育児休業復帰率100%を維持する ・男性育児取得率を前年比プラスにする	・育児休業復帰率 ・男性育児取得率	スカパーJSAT㈱	・育児休業復帰率100%を維持 ・男性育児取得率63.6%（前年度比+3.6ポイント） ・人事関連データ詳細は以下リンクにて掲載（2025年7月更新予定） https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/esg/social/ ・多様性尊重を促す情報発信を実施
22		⑧-3互いを尊重する、安心安全な組織づくり	心理的安全性が高く、一人ひとりが力を発揮できる職場環境・制度が整っている状態	エンゲージメント指標	・エンゲージメント指標を前年より改善する ・法定検診受診率100%を目指す ・高ストレス者割合を前年より改善させる	・エンゲージメント指標 ・法定検診受診率 ・高ストレス者割合	スカパーJSAT㈱	・エンゲージメントサーベイを実施 肯定的回答率：68.4%（前年比+1.3ポイント）※ ・法廷検診受診率：99.6%（前年比+0.7ポイント）※ ・高ストレス者割合：4.7%（前年比-1.4ポイント）※ ※スカパーJSAT㈱

No.	重要課題テーマ	重要課題 (マテリアリティ)	長期		短期		対象範囲	2024年度活動実績
			長期目標（2030年にありたい姿）	KPI	短期達成目標	KPI		
23	⑨地域・コミュニティの発展	⑨-1次世代教育・地域共生などの社会貢献	アセットを活用した社会貢献を通じ、Space for your Smileを実現する	ー	アセットを活用した社会貢献活動を継続および企画し推進する	社会貢献・地域活性を促すような施策数	グループ	・国連世界規模計画（WFP）の災害時支援活動に貢献することを目的にフィリピン向け災害用衛星インターネット回線提供の契約を締結 ・12月にWFPへのVSAT機器提供、同月に災害用衛星インターネット回線サービスを提供開始 ・地域の活性化および若い世代のスポーツの活性化の促進を目的に、福岡ソフトバンクホークスと連携した中学生の野球大会の生中継、全日本中学女子軟式野球大会のオール広島ガールズ初戦生中継を無料放送・配信などを実施 ■東南アジア教育支援PJ ・スカパーJSAT校における教育及び運営支援の継続 ・社内ウオーキングイベント歩数に応じた、ユネスコ経由の東南アジア教育支援寄付 ・社員から集めた不要品をユネスコカンボジア事務所へ寄贈 ■Sattelite Crayon Project ・「山のクレヨン」売り上げの一部である44万円をトンガ王国に寄付 ・ラスベガスのライセンスショーに参加し、地球の色を扱うカラーブランドを発表。米国および日本エージェントを獲得。 ■次世代教育支援 ・SPACE PEDIAコンテンツの追加や子供向けイベント（汐留サマーフェスティバル）参加による、「宇宙」への関心醸成活動 ・施設見学開始（受入れ実績：計7校、93名） ・科学の国・日本・地球を巡る科学技術人材育成に貢献
				ー	スカパー東京メディアセンターにおける災害時の地域貢献のため地方公共団体との連携を強化する	江東区との協定締結も含めた地域団体との連携・協力の実現	グループ	スカパー東京メディアセンター近在の地域団体が加入している「汐浜運河ルネサンス協議会」を通じた連携・協力

※No.15：重要課題テーマ「パートナーシップの促進」は、全てのマテリアリティに関わるため、個別の目標・KPIは設定していません。